



子ども大学かわごえ

CUK だより

第42号 NO.130112

2013年3月30日

第5期 第8回 授業記録

日時 : 2013年02月16日(土) 14:00~16:00

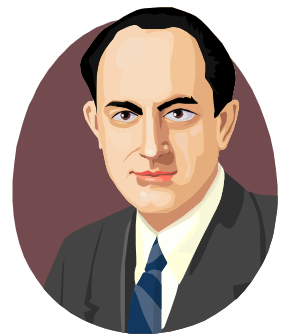
場所 : 東洋大学 川越キャンパス

テーマ : 太平洋戦争とは何だったのか?

講師 : 早稲田大学産業経営研究所 特別研究員 酒井一郎 氏

～はじめに～

歴史の学び方 イギリスの歴史家、政治家 : E・H カーの言葉
『歴史とは過去と現代との対話である』



E・H カー

1. 歴史の学習とは?

歴史とは私たちの祖先が生きた証(あかし)を国ごと、あるいは世界全体をまとめたもの。日本史、世界史。

歴史の中から人間一人一人の生き方について学ぶ事が出来る。

経営学の組織論に基づいて歴史を見直すと、大変興味深い。

○組織 : 人が目的を持って集まる集団。秩序に基づいて構成されている。

□群集 : 無秩序な人々の集まり。

2. 日本の歴史の3つの輝き

1) 平家物語

平家の盛衰をうたったもの。繁栄を極めた平家も源氏の台頭で滅びた。(壇ノ浦の戦い)

『祇園精舎の鐘の音、諸行無常の響きあり』で始まる盛者必衰のドラマは感動的。

平清盛や源頼朝(源義経)などが活躍。

2) 戦国時代

織田信長→豊臣秀吉→徳川家康・・・政権を掌握

真田幸村・・・大坂夏の陣で徳川家康を追い詰めた勇猛果敢な武将

3) 幕末/明治維新

西郷隆盛、大久保利通、桂小五郎、吉田松陰、高杉晋作、坂本龍馬、伊藤博文、

井上聞多(もんた)らが活躍



真田幸村

3. 源義経(牛若丸・弁慶)の組織論

幼名を牛若丸と言った。奥州藤原氏の庇護を受けた。

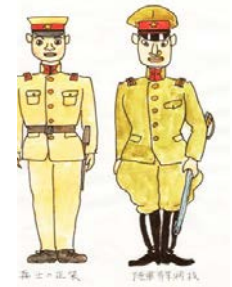
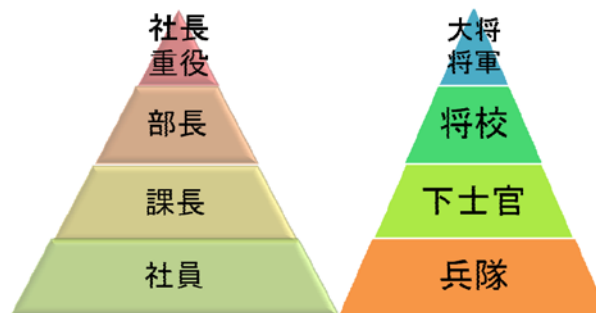
源頼朝が平家打倒の兵を挙げると、戦いに馳せ参じ、平家を滅ぼし功労者となった。

壇ノ浦の戦いでは、平家の船の漕ぎ手を殺傷して(ルール違反)、戦を有利に進めたりした。抜け駆けなど型破りな行動が目立ち、やがては頼朝から反逆者と見なされ、殺された(=組織人ではなかった)

4. 軍隊の構造

会社や役所と一緒に、大将や将軍が命令を出し、その命令に従って将校が自分の部隊の下士官や兵隊を動かす。日本の陸軍は将校たちが上の命令を無視して勝手な行動を起こして、太平洋先生の原因を作った。海軍は上からの命令に絶対服従で、勝つ自信がないまま太平洋戦争へ特入した。

・会社や役所と一緒に階層構造になっている



陸軍 歩兵と将校

5. 明治維新から太平洋戦争まで

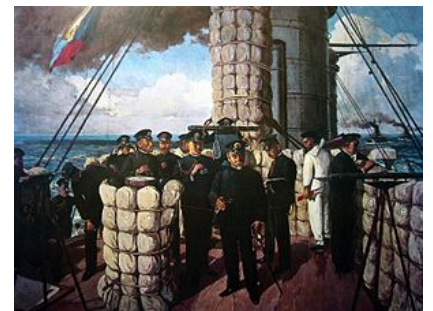
- 1) ペリー来航の衝撃：
- 2) 幕末の動乱
○戊辰戦争：
- 3) 明治維新政府の樹立：徳川幕府から天皇制へ
- 4) 西南戦争
明治10年(1877年)、西郷隆盛らが鹿児島で起こした明治維新政府に対する最後の反乱。
- 6) 明治憲法制定
- 7) 朝鮮併合
- 8) 日清・日露戦争：日本と清(中国)、日本とロシアとの戦争。日本は両戦争に勝利した。
- 9) 第一次世界大戦：人類史上初の世界大戦。日本は連合国側へ参戦し勝利した。



ペリー提督

6. 日露戦争

- ・ロシア帝国の極東膨張支配戦略
- ・弱小国日本の果敢な挑戦→バルチック艦隊撃滅で世界が仰天！
黄色人種の日本が白色人種のロシアに勝った！
- ・日露戦争勝利のつけ(重荷)・・・日本はこの戦いに勝って慢心(まんしん)したため、太平洋戦争にいたる破滅の道をたどることになった。



7. 満州事変+日中戦争

- ・19世紀、20世紀初頭・・・欧米列強諸国が帝国主義&植民地獲得競争に邁進(まいしん)した。
- ・遅れて参加した日本の狙いは=>中国(満州)の支配
- ・中国の状況・・・清朝の崩壊と中華民国の建国
- ・中国東北部の政治・軍事空白→日本陸軍の関東軍が満州地方を占領、清国ラストエンペラー溥儀(ふぎ)を国王として満州国を強引に建国(1932年3月)
- ・1937年7月日本陸軍上海上陸・・・現地邦人保護の目的
- ・陸軍の暴走(現地司令官の戦功争い)で上海上陸→南京攻略→重慶進軍→日中全面戦争へ突入

8. 太平洋戦争前夜

- ・海軍の軽挙（かるはずみ）・・・インドシナ進駐→米国を挑発
- ・米国の通告・・・占領地帯から軍を全面撤退させないと石油供給停止
- ・米国の要求拒否→開戦決定

開戦当時の日米軍の戦力比較(比率)

	日本	米国
航空機	1	4
戦車	1	6
艦船	1	3

日本の米国からの石油の依存度77%

9. 太平洋戦争の勃発

- ・開戦・・・真珠湾攻撃 1942年12月8日未明
真珠湾内に停泊していた米国連合艦隊が全滅。ただし、航空母艦群は不在、これが後で全体の戦局を左右することになる。
日本軍の初戦の活躍には目覚ましいものがあった。



零式艦上戦闘機-ゼロ戦

10. 勝敗を決した三つの決戦

1) ミッドウェー海戦 (1942年6月5日～7日)

米海軍航空母艦撃滅（げきめつ）を目的として日本海軍山本五十六司令長官の指揮のもとに展開された天下分け目の大海戦。日本側の油断と情報軽視によってまさかの日本海軍の完敗。日本海軍主力の航空母艦「赤城」「加賀」「蒼龍」「飛龍」の4隻を一挙に失い、これ以後日本海軍は敗戦まで制空権（空を支配する戦力）と制海権（海を支配する戦力）を回復できなかった。

2) インパール作戦 (1944年3月～7月)

英国の植民地インドの北東部の都市インパールを攻撃して、英国と中国の戦略物資補給路（ほきゅうろ）を絶とうとする作戦をおこした。食料や弾薬の補給を無視した無謀な作戦で、8万6千人の兵力を投入して、生還した兵力はわずか1万2千人で、大勢の兵隊が餓死と戦傷でこの作戦の犠牲になった。この戦いは、牟田口（むたくち）現地司令官の暴走と陸軍首脳が無為/無能が起こした無謀な作戦の代名詞として現代でもしばしば引用される。

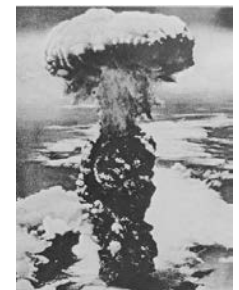


3) 沖縄戦 (1945年3月～6月)

連合軍(米軍主体)は、陸海空の圧倒的な戦力で沖縄を攻撃、上陸した米軍に追い詰められたのは、軍隊ばかりでなく、大勢の民間人が戦いに巻き込まれて集団自決(自殺)をしたり、戦闘の犠牲になった。

特攻隊員

連合軍側の艦船が停泊していた海上では神風特別攻撃隊(カミカゼとっこう隊)が、飛行機に爆弾をかかえてえて敵の船に体当たりを試みて、連合軍兵士に恐怖心を与えた。



11. 敗戦

- ・ソ連軍の参戦
- ・原爆投下：死者数 広島・・・約18万人 長崎・・・約15万人

12. 太平洋戦争の犠牲者

いかに多くの犠牲者が出たか！いかに多くの大人や子どもが父や母やきょうだいを亡くして悲しんだか！

中国の犠牲者の大半は民間人！隣国の中国に大変な損害を与えたことを忘れてはならない！

フィリピンの犠牲者の大半は、マニラ市攻防戦の犠牲者。

犠牲者数

	軍人	民間人
日本	230	80
中国	1000～2100	
朝鮮	22	2
フィリピン	-	100
アメリカ	41	-

(単位:万人)

13. 歴史から何を学ぶのか？

1) 民主主義と個人主義の未熟（みじゆく）

個人が自立できず付和雷同（ふわらいどう＝自己主張がなくすぐに他人に同調すること）
海軍は米国との戦争に勝つ自信がなかったのに「ノー」と言えなかった。

2) 統率力／説得力の不足

日本にはリーダーが育たない風土がある。「出る釘（くぎ）は打たれる」(＝目立つと足を引っ張られたり、いじ悪をされる)

「沈黙は金、雄弁は銀」(しゃべるよりだまっているほうがとく)

3) 太平洋戦争は日本近代化への不可避(さけられない)の関門(みち)

軍隊の横暴(おうぼう)＝軍国主義からの解放

4) 周辺諸国に与えた被害の認識

特に中国。韓国(朝鮮)、フィリピンにも。



14. 戦争について何を学ぶのか？

1) なぜ太平洋戦争に突入したのか？・根拠のない精神主義。「大和魂（やまとだまし）」

2) 戦争の惨禍（さんか）⇒平和の大切さ

戦争が呼ぶ狂気（きょうき）⇒略奪、暴行、人殺しが当たり前の感覚になる

3) 情報軽視の日本軍 2500年前の孫子の兵法を無視「敵を知り、己を知れば百戦危うからず」

15. 隣国との関係 韓国

1) 朝鮮併合・・・帝国主義時代であり、日本の行動は当時としては特別ではない。

2) 併合中は韓国の近代化に貢献 ⇔ 様々な無理も強要（功罪/プラスマイナスいずれか？）

3) 韓国は反日・愛国主義を徹底的に教育（建国神話が必要だから）

韓国人の反日意識は骨身に沁みて不変。日本人は歴史に触れない方が無難

4) 日本人として反省すること：西洋人崇拝＞アジア人蔑視

16. 隣国との関係 中国

1) 日中戦争～太平洋戦争時に中国を攻撃して多大な損害を与えた(⇔ 韓国との相違点)

2) 中国共産党(江沢民)は日本帝国主義の侵略をテーマとする反日・愛国主義教育で国民を洗脳

3) 歴史は歴史として未来志向のウィンウィン(Win・Win＝戦略的互惠・お互いにメリットがある)

関係の構築に外交努力が必要。

4) 日本の立場

中国の二千年に及ぶ覇権主義(はけんしゅぎ)・中華主義(＝中国が世界の中心である考え方)の復活に注意。米国とアジア近隣諸国(+世界中)と連携して中国に対抗する必要がある。

○「尖閣諸島問題」

尖閣諸島問題は単純な領土問題(国際法に基づく法律問題)ではなく、広報・外交・心理戦争である。中国の言い分に反論しないと日本はあらゆる場面で(いつものことだが)不利益を被る。

以上

子ども大学かわごえ

学長 遠藤克弥

事務局

NPO法人子ども大学かわごえ

〒350-1109 川越市霞ヶ関北 3-12-6

霞ヶ関北自治会館内



H-P <http://www.cuk.or.jp>

TEL 080-2053-2991 (事務局直通)

FAX 049-233-1640F

E_MAIL info@cuk.or.jp